

「主な取組」検証票

| | | | | |
|--------------|---|-------------|----|--|
| 施策展開 | 1-(2)-ア | 3Rの推進 | | |
| 施策 | ②未利用資源の活用の推進 | | | |
| (施策の小項目) | ○バイオマスの活用 | | | |
| 主な取組 | オガコ養豚普及促進事業 | 実施計画 記載頁 | 26 | |
| 対応する 主な課題 | ○本県の世界に誇る自然環境を保全することに加え、本県は狭隘な地理的条件にあることから、廃棄物の減量化など環境負荷を軽減する循環型社会を構築する必要があり、県内で発生した廃棄物の有効利用が求められている。 | | | |

1 取組の概要(Plan)

| | | | | | | | |
|-------|---|----|----|----|-----|-----|------|
| 取組内容 | 養豚における悪臭対策に優れるほか、効率的にふん尿の再利用ができるセルフクリーニング式オガコ養豚の普及を図るため、オガコの安定供給に向けた調査、講習会の開催・データ収集など普及啓発の取り組み、オガコ養豚方式導入に向けた豚舎改修などの費用助成を実施する。 | | | | | | |
| 年度別計画 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29～ | 実施主体 |
| | 17戸改修等 支援農家数 | | | | 50戸 | → | 県 |
| | オガコ養豚施設への改修等支援 | | | | | | |
| 担当部課 | 農林水産部 畜産課 | | | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

| 平成25年度実績 | | | | |
|-------------------|--|--------|---|------------|
| 事業名 | 予算 | 決算見込 | 活動内容 | 主な財源 |
| オガコ養豚普及促進事業 | 38,917 | 13,334 | <ul style="list-style-type: none"> ・粉砕剪定枝に係る生産現場調査および物理化学性等調査の実施 ・実証展示豚舎の設置 ・モデル農家のオガコ豚舎改修等に係る支援 | 一括交付金(ソフト) |
| 活動指標名 | | | 計画値 | 実績値 |
| オガコ豚舎改修等支援農家数(助成) | | | 25戸 | 2戸 |
| オガコ養豚に係る実証展示豚舎の設置 | | | — | 2戸 |
| 推進状況 | 平成25年度取組の効果 | | | |
| 大幅遅れ | 粉砕剪定枝生産に係る県内生産現場の状況把握、県外の優良事例を調査。ほか、粉砕剪定枝の物理化学性状を分析し、その品質を把握。衛生面の対策として消石灰添加殺菌オガコの農家検証および臭気調査を実証展示豚舎で実施し、データを収集。オガコ養豚モデル農家の豚舎改修等の支援は、6箇所まで計画していたが、飼料価格の高騰などの影響により、計画から離脱した農場があったため、2箇所の実施に留まった。 | | | |

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

| 平成26年度計画 | | | |
|-------------|--------|---|------------|
| 事業名 | 当初予算 | 活動内容 | 主な財源 |
| オガコ養豚普及促進事業 | 74,920 | <ul style="list-style-type: none"> ・粉砕剪定枝の養豚利用に関する研究 ・実証展示豚舎の設置 ・モデル農家の豚舎改修等に係る支援 ・「オガコ養豚経営実施マニュアル(改訂版)」の作成 | 一括交付金(ソフト) |

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

・消石灰添加殺菌オガコの効果について、県内2箇所の実証展示豚舎で検証しその殺菌効果を示唆するデータを収集できた。農家への理解醸成のための現地検討会の開催は、伝染病蔓延のため実施できていない。・未利用資源の剪定枝のオガコ利用については、畜産研究センターによる調査、予備試験等により粉碎剪定枝の物理化学性状等の新知見を得ることができた。今後さらに養豚利用での実証研究を進める。
・オガコ養豚を志向する養豚農家を誘引し、2箇所豚舎改修助成を実施できた。

(4) 成果指標の達成状況

| 成果指標 | 基準値 | 現状値 | H28目標値 | 改善幅 | 全国の現状 |
|--------------|--|--------------|--------------|-----|-------|
| — | — | — | — | — | — |
| 参考データ | 沖縄県の現状・推移 | | | 傾向 | 全国の現状 |
| オガコ養豚方式採用農家数 | 18戸 (23年) | 18戸 (24年) | 20戸 (25年) | ↗ | — |
| 状況説明 | 平成25年度の新規オガコ養豚方式採用農家数は、飼料価格の高騰等の影響により、計画の6戸から実績2戸にとり、現在県内のオガコ養豚採用農場数は、20戸。平成26年度の豚舎改修・オガコ養豚採用予定農場数は、6戸以上でオガコ養豚農家はさらに増加する見込み。 | | | | |

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・実証展示豚舎での臭気調査の結果、オガコ床の管理状況により、悪臭が発生する可能性を示唆する結果を得たため、効果的かつ経営に配慮したオガコの投入量、ふん尿の回収頻度、オガコ床の管理など養豚農家への適切な技術指導が必要。
・オガコの供給・品質の安定、オガコ単価に依然として農家の不安があり、普及の阻害要因となっている。県内の粉碎剪定枝は粗く、養豚敷料に向かないことや、毒性植物の混入の可能性が高いことが懸念されるため、養豚敷料に適したオガコ生産に向けた取組、業者育成などが必要。
・オガコ養豚の普及には衛生面、経営面、環境面の農家検証データの蓄積が必要。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・県・市町村など指導機関担当者の指導技術向上、指導体制の強化。
・養豚敷料に適したオガコの粒径等の条件の明確化。剪定枝利用による安定供給、低価格化。オガコ生産業者への情報提供。
・オガコ養豚に係る技術データ、経営データの農家検証によるさらなる蓄積。

4 取組の改善案(Action)

・モデル農家の巡回指導、技術・経営データの収集調査。ほか、研修会、現地検討会の実施による指導者育成、指導方法の検討。技術指導ポイントを加味した「オガコ養豚経営実施マニュアル(改訂版)」の作成。
・研究機関(畜産研究センター)による粉碎剪定枝の粒径等生産条件の検討、養豚敷料利用における豚生産性、環境改善効果等の実証検討などの研究課題化。
・豚舎改修を実施したモデル農家の実証展示豚舎としての活用。

「主な取組」検証票

| | | | | |
|--------------|---|-------------|----|--|
| 施策展開 | 1-(2)-ア | 3Rの推進 | | |
| 施策 | ②未利用資源の活用の推進 | | | |
| (施策の小項目) | 〇バイオマスの活用 | | | |
| 主な取組 | 環境保全型農業支援 | 実施計画 記載頁 | 26 | |
| 対応する 主な課題 | 〇本県の世界に誇る自然環境を保全することに加え、本県は狭隘な地理的条件にあることから、廃棄物の減量化など環境負荷を軽減する循環型社会を構築する必要がある、県内で発生した廃棄物の有効利用が求められている。 | | | |

1 取組の概要(Plan)

| | | | | | | | |
|-------|---|----|----|----|----|-----|------|
| 取組内容 | 養豚における悪臭対策に優れるほか、効率的にふん尿の再利用ができるセルフクリーニング式オガコ養豚の普及を図るため、オガコの安定供給に向けた調査、講習会の開催・データ収集など普及啓発の取り組み、オガコ養豚方式導入に向けた豚舎改修などの費用助成を実施する。 | | | | | | |
| 年度別計画 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29～ | 実施主体 |
| | 家畜排せつ物利用技術の開発 | | | | | → | 県 |
| 担当部課 | 農林水産部 畜産課 | | | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

| 平成25年度実績 | | | | |
|-------------------|--|--------|---|------------|
| 事業名 | 予算 | 決算見込 | 活動内容 | 主な財源 |
| オガコ養豚普及促進事業 | 38,917 | 13,334 | <ul style="list-style-type: none"> ・粉砕剪定枝に係る生産現場調査および物理化学性等調査の実施 ・実証展示豚舎の設置 ・モデル農家のオガコ豚舎改修等に係る支援 | 一括交付金(ソフト) |
| 活動指標名 | | | 計画値 | 実績値 |
| オガコ養豚に係る実証展示豚舎の設置 | | | — | 2戸 |
| オガコ豚舎改修等への助成 | | | — | 2戸 |
| 推進状況 | 平成25年度取組の効果 | | | |
| 大幅遅れ | 粉砕剪定枝生産に係る県内生産現場の状況把握、県外の優良事例を調査。ほか、粉砕剪定枝の物理化学性状を分析し、その品質を把握。粉砕剪定枝は、畜ふんの堆肥化に必要な資材とであり、安定供給を図ることにより、家畜排せつ物の利用の推進につながる。衛生面の対策として消石灰添加殺菌オガコの農家検証および臭気調査を実証展示豚舎で実施し、データを収集。オガコ養豚モデル農家の豚舎改修等の支援は、6箇所まで計画していたが、飼料価格の高騰等などの影響により、計画から離脱した農場があったため、2箇所の実施に留まり、大幅な遅れとなっている。 | | | |

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

| 平成26年度計画 | | | |
|-------------|--------|---|------------|
| 事業名 | 当初予算 | 活動内容 | 主な財源 |
| オガコ養豚普及促進事業 | 74,920 | <ul style="list-style-type: none"> ・粉砕剪定枝の養豚利用に関する研究 ・実証展示豚舎の設置 ・モデル農家の豚舎改修等に係る支援 ・「オガコ養豚経営実施マニュアル(改訂版)」の作成 | 一括交付金(ソフト) |

(3) これまでの改善案の反映状況

・消石灰添加殺菌オガコの効果について、県内2箇所の実証展示豚舎で検証しその殺菌効果を示唆するデータを収集できた。農家への理解醸成のための現地検討会の開催は、伝染病蔓延のため実施できていない。・未利用資源の剪定枝のオガコ利用については、畜産研究センターによる調査、予備試験等により粉砕剪定枝の物理化学性状等の新知見を得ることができた。今後さらに養豚利用での実証研究を進める。
 ・オガコ養豚を志向する養豚農家を誘引し、2箇所豚舎改修助成を実施できた。

(4) 成果指標の達成状況

| 成果指標 | 基準値 | 現状値 | H28目標値 | 改善幅 | 全国の現状 |
|--------------|--|--------------|--------------|-----|-------|
| — | — | — | — | — | — |
| 参考データ | 沖縄県の現状・推移 | | | 傾向 | 全国の現状 |
| オガコ養豚方式採用農家数 | 18戸 (23年) | 18戸 (24年) | 20戸 (25年) | → | — |
| 状況説明 | 平成25年度の新規オガコ養豚方式採用農家数は、飼料価格の高騰等の影響により、計画の6戸から実績2戸にとり、現在県内のオガコ養豚採用農場数は、20戸。平成26年度の豚舎改修・オガコ養豚採用予定農場数は、6戸以上でオガコ養豚農家はさらに増加する見込み。 | | | | |

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・実証展示豚舎での臭気調査の結果、オガコ床の管理状況により、悪臭が発生する可能性を示唆する結果を得たため、効果的かつ経営に配慮したオガコの投入量、ふん尿の回収頻度、オガコ床の管理など養豚農家への適切な技術指導が必要。

・オガコの供給・品質の安定、オガコ単価に依然として農家の不安があり、普及の阻害要因となっている。県内の粉砕剪定枝は粗く、養豚敷料に向かないことや、毒性植物の混入の可能性が高いことが懸念されるため、養豚敷料に適したオガコ生産に向けた取組、業者育成などが必要。

・オガコ養豚の普及には衛生面、経営面、環境面の農家検証データの蓄積が必要。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・県・市町村など指導機関担当者の指導技術向上、指導体制の強化。

・養豚敷料に適したオガコの粒径等の条件の明確化。剪定枝利用による安定供給、低価格化。オガコ生産業者への情報提供。

・オガコ養豚に係る技術データ、経営データの農家検証によるさらなる蓄積。

4 取組の改善案(Action)

- ・モデル農家の巡回指導、技術・経営データの収集調査。ほか、研修会、現地検討会の実施による指導者育成、指導方法の検討。技術指導ポイントを加味した「オガコ養豚経営実施マニュアル(改訂版)」の作成。
- ・研究機関(畜産研究センター)による粉碎剪定枝の粒径等生産条件の検討、養豚敷料利用における豚生産性、環境改善効果等の実証検討などの研究課題化。
- ・豚舎改修を実施したモデル農家の実証展示豚舎としての活用。